

社会を変えうるエビデンスに光を

『DST EVIDENCE AWARDS 2024』受賞者が決定！

大賞は、ビッグデータ・AI解析で子供を守る通学路安全対策に関する取組と、
官学が連携した高齢者の疾病パターンと予後についての分析の2事例に決定。



一般社団法人DSTは、2024年11月19日(火)、LODGEにて、「DST EVIDENCE AWARDS 2024」の最終審査を開催し、大賞及び優秀賞、特別賞で13団体の受賞者を決定しました。

DST EVIDENCE AWARDS 2024 受賞者について

社会を変えうるエビデンスに光を当てる「DST EVIDENCE AWARDS 2024」。7月9日から10月10日まで、エビデンスを社会実装し課題解決に寄与したもの、その促進に繋がるような研究成果、研究アイデアを募集したところ、研究者、自治体、企業など多様な方々より41件の応募がありました。

厳正なる一次審査の結果選出された8団体のファイナリストが、11月19日(火)のアワードイベントにて審査員の前でプレゼンテーションを行い、大賞、優秀賞が以下のとおり決定しました。

▶アクション部門 大賞

応募者	プロジェクト名
岐阜市	ビッグデータ・AI解析で子どもを守る、地域で守る通学路安全対策ワークショップ



▶エビデンス部門 大賞

応募者	プロジェクト名
つくば市 筑波大学/山武市	新規要介護認定を受けた高齢者の疾病パターンの分類と予後の関連



▶アイデア部門 大賞 該当なし

▶アクション部門 優秀賞

応募者	プロジェクト名
アストラゼネカ株式会社/ 富士フイルム株式会社	肺がん治療における化学放射線療法過去症例検索システムの開発
岩手県 「岩手の幸福に関する指標」研究会/ 総合計画審議会「県民の幸福感に関する分析部会」	県民の幸福を守り育てる取組 ～県民のWell-being向上を目指した政策展開の実践～
岡山県	調査用封筒の切り替えに向けた検証

▶エビデンス部門 優秀賞

応募者	プロジェクト名
DeSCヘルスケア株式会社 濱谷 陸太/福田 洋/竹林 正樹/ 森 正樹/松島 隆二/中野 憲/ 三宅 邦明/谷 芳明/横川 博英	身体活動や心血管リスクバイオマーカーに対する健康アプリkencomの効果
横浜市立大学 金子 惇 准教授 沖縄県立病院附属診療所医師 /池田 登顕/相馬 優樹/野村 理/ 清水 沙友里/ 井上 真智子	へき地医療の現場からのエビデンス発信と持続可能な医療提供体制の構築: 離島診療所のPractice Based Research Networkから全国のへき地医療研究ネットワークへ

▶アイデア部門 優秀賞

応募主体	プロジェクト名
パーソルホールディングス株式会社	Gallup World Poll を通じた世界の”はたらく Well-being” の可視化とその実践

また、惜しくもファイナリストには選ばれなかったものの、課題解決のためにデータベースを堅実に構築している点が高く評価された以下の5事例を、「データベース構築賞」として表彰を行いました。

▶データベース構築賞

応募主体	プロジェクト名
中外製薬株式会社	患者さんの命を守る次世代情報プラットフォームの実現に向けて“副作用DBツール”を通じた医療変革
福岡市/九州大学	エビデンスベースで推進する健康施策
株式会社プリメディカ/ 高木 智久/内藤 裕二/ 井上 亮	日本人腸内細菌叢データベースを活用した腸内環境評価システムの開発と検査サービスの事業化
株式会社WiseVine	成果重視型政策立案プラットフォーム (Build & Scrap) の構築・推進
早稲田大学 大西 宏一郎 教授 /久保田 荘/遠山 祐太 /早稲田大学データ科学センター/(株)みずほ銀行デジタルマーケティング部	コロナ禍での定額給付金が家計の消費行動に与えた影響

エビデンスの質はもちろん、社会実装に重きを置くDST。研究者だけでなく、ビジネス、自治体といった様々な角度から社会を変えていく、という強い思いで審査を実施しています。大賞については、住民ひとりひとりが実感を持って交通安全を考えるためにエビデンスを使った点や、今後の介護保険を変えていく可能性がある点と期待される点などがそれぞれ高く評価されました。

審査委員長の慶應義塾大学 宮田 裕章 教授から総評として、「このエビデンスアワードがこれからの日本の未来に繋がっていくという観点で、大賞として2つの事例を選出させていただきましたが、本当にわずかな差で、どの発表もとても素晴らしいものでした。一人ひとりの発表自体が示唆に富むもので、審査員である我々自身も大変勉強になりました。これから先、このエビデンスの輪を皆さんと一緒に広げていくことができればと期待しています」とコメントがありました。

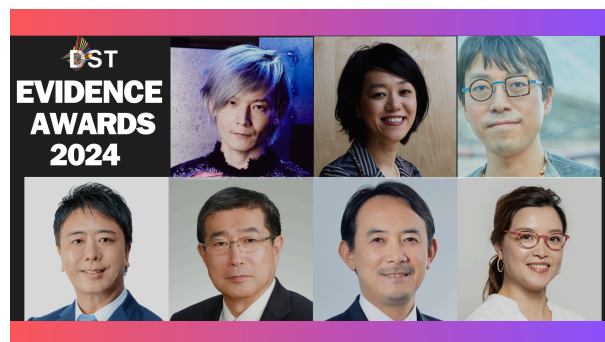


DST EVIDENCE AWARDS 2024について

エビデンスに基づく意思決定の重要性は世間的に広まりつつありますが、政策形成においても、企業の意思決定においても、エビデンスではなく、社会の雰囲気や個人のエピソードなどあいまいなもので決定されることは依然として多い状況です。

一方で課題として、社会にはまだまだ有効なエビデンスが足りない、既にある有効なエビデンスが使われていないといった点が挙げられています。複雑さを増す社会において、エビデンスは次に踏み出すべき方向を示す道しるべとなり、意思決定においてデータやエビデンスを活用することで、より良い社会が目指せるのではないかと考えています。

そこで、社会を創る全ての人に必要な道しるべと変革の手法を届けるため、社会を変えうるエビデンスに光を当てるため、本アワードを開催しました。



アワードでは、エビデンスを社会実装し課題解決に寄与した事例を表彰する「アクション部門」、社会保障領域(※)における課題解決に繋がりうる研究で、社会に実装できる可能性があるものを表彰する「エビデンス部門」、社会保障領域(※)における課題解決に繋がりうる研究のアイデアを表彰する「アイデア部門」、以上の3つの部門を設け、広く募集を実施。(募集期間:7/9~10/10)

※社会保障領域...本アワードでは、医療、介護、福祉、貧困、雇用及び教育領域のことを指します。

企業、自治体、研究者など幅広い方々から41件の応募があり、厳正なる一次審査を行った結果、8件のファイナリストを選出。11/19のイベントにてファイナリストからプレゼンテーションを行い、その内容も踏まえて審査員が大賞、優秀賞を決定しました。

【審査員】※審査委員長以外は50音順で掲載。敬称略



〔審査委員長〕
慶應義塾大学 医学部
医療政策・管理学教室 教授
(一社)DST 共同代表理事
宮田 裕章



セブン&アイ・ホールディングス株式会社
代表取締役副社長
伊藤 順朗



LINEヤフー株式会社
代表取締役会長
川邊 健太郎



NewsPicks Studios
取締役
Executive Producer
木寄 綾奈



福岡市長
高島 宗一郎



慶應義塾大学 総合政策学部
教授
中室 牧子



イェール大学 助教授
半熟仮想株式会社 代表
成田 悠輔

※書面により事前に審査

【一次審査員】※50音順で掲載。敬称略

- ・一般社団法人エビデンス共創機構 代表理事 伊芸 研吾
- ・慶應義塾大学医学部 助教 櫻井桂子
- ・慶應義塾大学医学部 特任准教授/東京財団政策研究所 主席研究員 藤田 卓仙
- ・一般社団法人DST 常務理事 崎田 恭平
- ・一般社団法人DST 事務局長 高嶋 和代

【主催】

一般社団法人DST

【協賛・支援】

株式会社麻生、株式会社MTG、オイシックス・ラ・大地株式会社、The Breakthrough Company GO、サントリーホールディングス株式会社、シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社、

株式会社ジズホールディングス、株式会社セブン&アイ・ホールディングス、武田薬品工業株式会社、
中外製薬株式会社、株式会社Mizkan、三菱商事株式会社、株式会社メディパルホールディングス、
ヤンセンファーマ株式会社、株式会社ローソン

【後援】

デジタル庁

一般社団法人DSTについて

2022年11月に設立された第三者効果検証機関。社会保障領域における様々な課題について、病気や介護、
貧困などが起きる前「事前領域」で、データを用いてエビデンスを明らかにすることで解決を図る。アカデミア、企業、自治
体が課題を持ち寄り、研究の実施からエビデンスの社会実装を目指し連携して取り組む。

正式名称：一般社団法人DST(Data for Social Transformation)

本社所在地：東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー5階

共同代表理事：高島 宏平(オイシックス・ラ・大地 株式会社 代表取締役社長)、宮田 裕章

(慶應義塾大学教授)、近藤 正晃ジェームス(公益財団法人国際文化会館 理事長)

事業内容：医療、介護、福祉、貧困、雇用及び教育の各分野におけるデータを活用した科学的な効果検証事業、成果発
信・社会実装促進事業

設立：2022年11月

HP：<https://dst.or.jp/>

■お問い合わせ窓口

一般社団法人DST事務局

担当：高嶋・山内・加藤

メール：info@dst.or.jp

TEL：080-4927-7142